

CLARINET

クラリネット

笑顔の「イ」と口笛の「モ」

持丸秀一郎 もちまる・しゅういちろう



- ◆出身 武蔵野音楽大学、同大学院、ハンガリー国立リスト音楽院
- ◆所属 日本センチュリー交響楽団首席奏者 日本クラリネット協会理事
- ◆趣味 料理、ドライブ
- ◆血液型 B型
- ◆星座 てんびん座
- ◆読者にひとこと 常に謙虚な気持ちで音楽に接してください
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

今月はアンブシュアのお話です。管楽器を演奏する上で、アンブシュアはとても重要です。初心者中・上級者の人も、もう一度確認してみましょう。

■「イ」→「モ」の2段階

まずは【図1】を見て、「イ」と声に出してみましょう。唇の両サイドが左右に引っ張られ、顎の筋肉も下に引っ張られるのを意識します。「笑顔」をイメージするとよいでしょう。

今度は【図2】を見ながら、「モ」と声を出してみましょう。上下の唇は中央に寄せられ、顎の筋肉も盛り上がり梅干のようにシワがよっているかもしれません（梅干を作る必要はありません）。口笛を吹く口の形をイメージしてください。

では、この2つを同時に……といってもそれは無理……かな？ 実はクラリネットのアンブシュアは「イ」と「モ」の“よいとこ取り”、つまり引っ張る力と寄せる力の両方が大事なのです。【図3】のように、「イ」で作った筋肉の緊張具合・顔の外側に向かって筋肉を引っ張る力を保ったまま、「モ」のときのように唇の中央に筋肉を集め、アンブ

シュアを作ってみましょう。

「イ」の力が強すぎると、リードに触れる唇の筋肉が薄くなり、音色や音程などのコントロールができなくなってしまいます。また、マウスピース横からの息漏れの原因にもなります。逆に「モ」の力が強すぎると、顎に梅干のようなシワができ、顎の状態が不安定になってしまいます。大切なのは一見相反する2通りの筋肉の使い方の両方を、バランスよく意識することです。きれいな音の持ち主はアンブシュアもきれいですので、見た目から力の加減はなかなかわかりませんが、鏡を見ながら音と照らし合わせてよく研究してみてください。

■噛んで吹かない

クラリネットを始めたばかりの人は、みなさん下唇の内側の痛みを苦しんだと思います。練習時間にもよりますが、徐々に唇が厚く・丈夫になり、痛みから解放されていきます。いつまでも唇が痛い……という人は、噛みすぎが原因の可能性があります。

確かにクラリネットは、サクソなどと比べるとリードにかなりの圧力がかかるのですが、けっして顎の力で噛んで演奏する楽器で

入れようと顎の力を緩めると音程が低くなってしまいます。音量によって音程に大きな差のある人は、顎の力（噛む力、咀嚼力）で演奏している可能性があります。アンブシュアで大事なのは顎の力ではなく、リードやマウスピースを包み込んでいる唇・顔の筋肉という意識を持ってください。

■上唇の重要性

下唇はリードに直接触れているので、重要なことはみなさん意識していると思いますが、上唇はどうでしょうか？ 確かにマウスピースの上側は直接歯を当てているので、上唇は息が漏れないように塞ぐだけ……と考えがちですが、とくにアルティッシモ音域とブリッジ音域での音色と音程に上唇は関係しています。

世の中にはこの上唇の重要性を考え、オーボエのように上・下とも歯に唇を巻きつけるダブルリップというアンブシュアでクラリネットを演奏している人もいます。今すぐ真似する必要はありませんが（私も通常のアンブシュアであるシングルリップです）、それぐらい上唇も大切なんだ……と意識している研究してみてください。

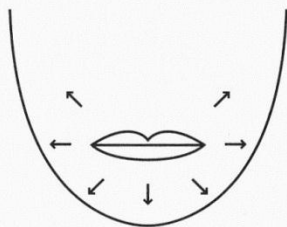
■右手親指

案外見落とされがちですが、右手の親指もアンブシュアにとっても関連しています。右手の親指は楽器を乗せて支えています。実際には乗せるのではなく、持ち上げるという感覚が重要です。【図4】のように、右手親指・もしくは右腕で楽器を持ち上げ、上前歯で受け止めるという感覚を持ちましょう。右手親指に楽器を乗せているだけだと、楽器の重さが下顎・下唇にかかってしまい、下唇の筋肉を自由に使えず顎の力でリードを噛む原因になってしまいます。右手親指と上前歯で楽器を安定させ、下唇は自由にコントロールできるように楽器を構えましょう。

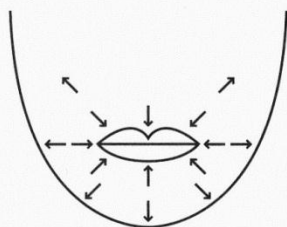
それではまた来月♪

【図1】「イ」笑顔をイメージして

【図2】「モ」口笛のアンブシュアをイメージして



【図3】アンブシュア（「イ」+「モ」）



【図4】



はありません。リードとマウスピースの間はわずか数ミリしか開いていないので、顎の力で噛みついてしまうと簡単にこの隙間はなくなってしまいます。

また、噛む力でこの隙間を狭くしpを鳴らそうとすると音程が高くなり、fを鳴らすために息をたくさん